

北摂里山は日本人のこころ  
～ひと、さと、ずっと。～

# 北 摂 里 山 博 物 館 構 想

平成 23 年 9 月

兵庫県阪神北県民局

## 目 次

1	はじめに	1
2	北摂の里山	2
1)	北摂里山の魅力	2
①	多彩な里山資源	2
②	生物多様性の宝庫	2
③	都市に隣接した里山	3
④	里山管理「兵庫方式」	3
⑤	環境への意識や市民力の高さ	3
2)	北摂里山の課題と対応	4
3	構想の基本的な考え方	5
1)	構想の目的	5
2)	対象地域	5
3)	3つの里山街道	5
4)	基本理念	6
5)	戦略コンセプト	6
6)	基本方針	7
4	構想の実現にあたって	8
1)	広報の戦略	8
2)	効果的な基盤整備	9
3)	ツーリズムの振興	10
4)	里山資源を活用した環境教育・環境学習の推進	11
5)	活動支援と自立的運営	11
5	北摂里山の新たな役割	12
1)	里山資源の新たな価値の創出とその利活用	12
2)	北摂里山の利活用	12
①	「見る・歩く」(ツーリズム資源)	13
②	「知る・触れる」(情報資源)	13
③	「住む・楽しむ」(環境資源)	14
④	「使う・創る」(経済資源)	15
⑤	「学ぶ・守る」(里育資源)	16
6	構想の実現に向けた推進体制	18
1)	構想実現へ向けた連携	18
2)	推進体制のあり方	19
7	懇話会 名簿	22

# 北摂里山博物館構想

## 構想の目的

都会近くに残された北摂の里山地域一帯を「北摂里山博物館(地域まるごとミュージアム)」として整備し、生産活動はもとより環境学習、野外活動など、訪れる人々それぞれのニーズにあわせて活用されることを通じ、北摂里山の持続的な保全を図り、北摂地域の活性化につなげることを目的とします。

## 対象地域

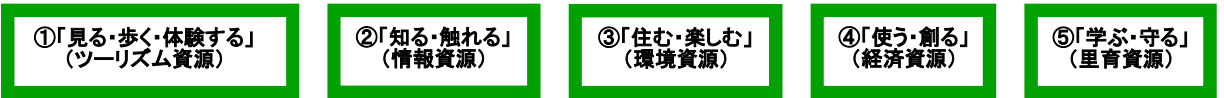
阪神北県民局管内にある30箇所の里山のひとつひとつを展示物に見立て、“地域まるごと博物館”とします。管内のこれら里山は、構想対象地域の東西を流れる猪名川、武庫川に沿って点在しており、これらの里山を多くの人々に楽しみながら自由に巡っていただくため、猪名川町の大野山から伊丹市の伊丹緑地に至るルートを「猪名川里山街道」、三田市から伊丹市の昆陽池公園に至るルートを「武庫川里山街道」として位置づけます。また、たがいに固有の自然環境や歴史、文化を有する猪名川流域の「伝統的里山」と武庫川流域の「先進的里山」を結ぶ東西の回廊として、ふたつの中上流域を川西市の黒川から猪名川町、宝塚市を経て三田市の有馬富士公園まで東西に結ぶルートを「北摂里山街道」として構想の柱のひとつに位置づけます。



## 基本方針



## 北摂里山の新たな役割 (里山資源の新たな価値の創出とその利活用)



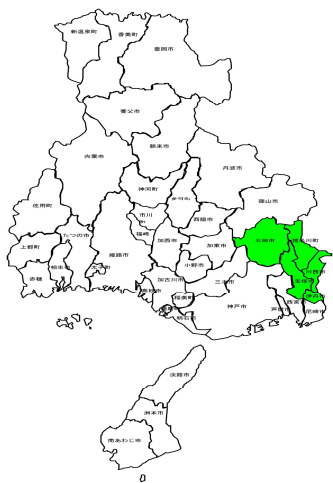
## 構想の実現にあたって






- 1) 広報の戦略
- 2) 効果的な基盤整備
- 3) ツーリズムの振興
- 4) 里山資源を活用した  
環境教育・学習の推進
- 5) 活動支援と自律的運営

## 構想の実現に向けた推進体制



# 北摂里山博物館構想 里山分布地図



-  : 里山
-  : ビジターセンター
-  : インフォメーションコーナー
-  : 北摂里山街道
-  : 猪名川里山街道
-  : 武庫川里山街道



## 三田市

- ① 県立有馬富士公園
- ② 三田市立有馬富士森林公園
- ③ 高平ナナマツの森
- ④ 高平観福の森  
(麒麟水源の森づくり)
- ⑤ 乙原てんぐの森
- ⑥ 大谷地区
- ⑦ 南公園 (整備予定)

## 宝塚市

- ① 櫻の園亦楽山荘
- ② 県立宝塚西谷の森公園
- ③ 丸山湿原
- ④ 宝塚自然の家
- ⑤ 松尾湿原
- ⑥ 北雲雀きずきの森
- ⑦ ゆずり葉の森
- ⑧ 山手台南公園
- ⑨ 北中山やすらぎの道

## 猪名川町

- ① 大野山
- ② 柏原の棚田
- ③ 朽原めぐみの森
- ④ 内馬場の森
- ⑤ 多田銀銅山
- ⑥ 高原ロッジ・メープル猪名川

## 川西市

- ① 妙見山
- ② 黒川
- ③ 県立一庫公園
- ④ 国崎クリーンセンター
- ⑤ 多太神社の森
- ⑥ エドヒガンの森(水明台)

## 伊丹市

- ① 昆陽池公園
- ② 伊丹緑地

## 1 はじめに

北摂地域は、大阪や神戸などの大都市に近接しながら、「日本の原風景」とも言える豊かな自然景観や植生が随所に広がっています。面積の約六割が森林で、その大部分がコナラ林・アカマツ林に代表される樹林（里山林）です。猪名川上流域は、**伝統的里山**と呼ばれ、現在も茶道の必需品である炭を生産するためのクヌギ林が存在し、里山林を象徴するパッチワーク状の景観が持続されています。一方、武庫川上流域は、**先進的里山**と呼ばれ、放置されてきた里山を森林ボランティア等が再生・整備に参画し、自由に散策できるフィールドとして活用されています。

北摂里山博物館構想（以下「構想」という。）は、北摂地域の里山（以下「北摂里山」という。）における保全及び再生活動を基本に、さらに、人と里山が互いに恵みを与えあう（共生する）豊かな地域へと発展することを願って、策定するものです。平成 28 年度には新名神高速道路が開通する予定で、北摂里山のエリアにはインターチェンジも開設され、利便性や付加価値がさらに高い地域となります。

構想で示す里山の利活用や保全・整備の方針について、すでに里山に関与している方はもちろん、まだ関わっていない方も含めた多くの人々に、里山というものを理解していただき、自分のできる範囲で里山への関わり方を見つけ、里山を大いに楽しんでいただきたいと思います。それが、すなわち北摂里山の持続的な保全や北摂地域の元気、活性化につながっていくこととなります。

なお、構想の作成にあたっては、多様な有識者等からなる「北摂里山博物館構想推進懇話会」を設置し、貴重な意見・提案を頂いております。

※ この構想では、北摂と呼ぶ地域を歴史的に言われている地域に加え、猪名川や武庫川の豊かな自然環境を共有する隣接の伊丹市を含む区域として取り扱っております。

※※ この構想では、生物多様性に富み、多くの人が訪れ、利活用できる北摂地域の里地・里山、ため池、湿地などを「里山」と表記しています。

## 2 北摂の里山

### 1) 北摂里山の魅力

#### ※ 万葉集の歌

しなが鳥 猪名山とよ  
に 行く水の 名のみ  
寄りし 隠(こも)り妻  
(つま)はも (巻 11・  
2708 番歌)

武庫川の 水脈(みを)を  
早みと 赤駒の  
足搔(あが)く激(たぎ)  
ちに 濡れにけるかも  
(巻 7・1141 番歌)

#### ※ 菊炭

この地域で生産されている池田炭の名で知られる「菊炭」は、最初は鉱山で採掘された鉱石の精錬用として用いられましたが、あまりに良質なため、やがて京都の茶席などでもつばら使われるようになりました。豊臣秀吉が褒めたとも言われたこの「菊炭」は、室町時代から明治初期まで宮中へ献上され、その炭焼技術は、茶道家元へ納める伝統産業として今に受け継がれています。

#### ※ エドヒガン

ソメイヨシノの母種として有名なエドヒガン(別名ヒガンザクラ)は、野生のものは珍しく、群生してみられることはめったにありません。兵庫県レッドデータブック(Cランク)に記載されています。

#### ① 多彩な里山資源

奈良時代に編纂された「万葉集」には、すでに北摂地域を代表する河川である「猪名川」「武庫川」両流域の地名が和歌の中に登場し、都人と北摂地域の深い関わりをうかがい知ることができます。(※)

猪名川流域には、豊臣秀吉の埋蔵金が眠っていると伝承され、この地域の銀が豊臣家の財政を支えたとされている多田銀銅山などの鉱山跡が残っています。この地域の里山は、伐採年の異なるパッチワーク状景観を維持し、菊炭(※)の伝承や茶の湯文化との結びつきからも「日本一の里山」と称されています。また、その周辺には「エドヒガン」(※)や台場クヌギ(※)が見られます。

一方の武庫川流域では、放置された里山を森林ボランティアなど地域の人々と協働で再生し、自由に散策できるフィールドとして整備するなど、里山と人との新しい関係が築きあげられています。またこの流域には、宝塚市玉瀬の丸山湿原、三田市下相野の皿池湿原など生物多様性に富んだ貴重な湿原が残されています。

このように、北摂里山は、歴史・文化そして自然などの多彩な資源が潜在する魅力ある場所なのです。

#### ② 生物多様性の宝庫

北摂の里山林は、アカマツ林が最も広い面積を占めていますが、松枯れのために減少し良好な樹林は非常に少なくなっています。変わって増加しているのがコナラーアベマキ林です。コナラーアベマキ林は、三田市や宝塚市などの山足部や谷部に広がっています。一方クヌギ林は川西市北部と猪名川町南部の限られた地域に分布しています。兵庫県全体をみてもクヌギ林の分布は少なく、

※ 台場クヌギ

クヌギを「台場」という特殊な仕立て方で育てること。地上部より1～2mのところを幹を伐採し続けると、幹の下部だけが太くなり、奇妙な形のクヌギが形成されます。

当地域のクヌギ林は貴重なものです。

また、台場クヌギに生息するオオクワガタをはじめ、クヌギの樹液に集まるカブトムシ、クワガタ類、オオムラサキ、クヌギの葉を食べるアカシジミ、ウラナミアカシジミといった小さな美しいチョウ類などが生息しています。

北摂地域の里山林は生物多様性の宝庫であります。

③ 都市に近接した里山

大阪や神戸などの大都市に近接していることも北摂里山の特徴の一つと言えます。他地域の里山と比べ、鉄道や道路網の発達が著しく、大阪や神戸から1時間圏内に豊かな里山景観が残されています。平成28年度に予定されている新名神高速道路の開通で益々便利になり、大阪・神戸のみならず全国からのアクセスも期待できます。こうした地理的な条件は、都市と里山との交流を活性化させる大きな利点だと考えられます。

※ 里山管理「兵庫方式」

「兵庫方式」とは、里山の将来像の一つである多様性夏緑高林(種多様性の高い夏緑高林)としての管理方法で、防災、生物多様性、景観の阻害要因となっている照葉樹、ネザサ、つる植物を伐採し、コナラ、アベマキなどの夏緑高木を保全することによって望ましい植生を形成する方式です。管理作業によって明るい環境が形成され、林内には多様な植物が生育可能となります。夏緑型の樹林という点ではかつての里山林と同じなので、地域の景観も護ることができ、環境学習の場やレクリエーション利用の点でも優れています。

④ 里山管理「兵庫方式（多様性高林方式）」

里山は生物多様性保全の観点から重要な地域資源であり、北摂地域では様々な取組が進められています。兵庫県は里山林を「人と自然の共生をめざした環境林・文化林」として位置づけ、全国にさきがけて「兵庫方式」と呼ばれる里山管理手法に取り組み、先進的事業として注目されています。

実際に北摂地域で兵庫方式を実践した結果、カスミザクラやヤマツツジなど約40種の植物の自生が確認された他、ギフチョウの生育の場でもあるヒメカンアオイが増殖するなどの成果を残しています。

⑤ 環境への意識や市民力の高さ

北摂地域は、大正時代に「阪神間モダニズム」と称された新しい生活文化・ライフスタイルを発芽させ、近代

の日本人の生活スタイルに大きな影響を与えています。北摂地域の市民力の高さは、このような阪神間モダニズムにも起因していると考えます。

北摂里山では、高い市民力に支えられ、森林ボランティアや環境活動団体によるさまざまな活動や取組が行われています。川西市の黒川地域や県立一庫公園、宝塚市の県立西谷の森公園、三田市の県立有馬富士公園をはじめ、北摂里山のいたるところで、30以上の団体が間伐や下草刈りなどの里山整備、自然観察会、環境学習などの里山活動が行われています。最近では、三田市のフラワータウン南公園が、「まちなかり山公園」として市民との協働による里山づくりが計画されており、伊丹市の昆陽池ではクヌギの植樹やホタルの生息空間づくり、オニバス等希少種の再生に向けた環境づくりを市民との協働により進めるなど注目を集めています。

## 2) 北摂里山の課題と対応

かつて炭や薪など燃料生産の場であった里山は、1960年代から燃料の生産の場としては利用されなくなり、人と里山とのかかわりが薄れてきました。地域の過疎化が進んでおり、最近では森林ボランティアの高齢化も進み、里山に関わる人材不足も深刻となっています。その結果、放置林となった里山が増加し、照葉樹林化、林床におけるネザサ等の優占化、マツ枯れ・ナラ枯れの発生、シカの食害などの問題も発生し、生物多様性の低下をもたらし、今後何らかの対策が必要です。

これまで、北摂里山では、兵庫県立人と自然の博物館や森林ボランティア、環境活動団体によるさまざまな活動や取組が行われていますが、専門家や限られた方々だけでは、里山の荒廃を防ぐことができません。

そこで、北摂地域の特徴でもある市民レベルでの種々の活動をより活性化させ、北摂里山に埋もれる新たな資源を有効に活用し、さらに北摂里山に関する情報を常に発信し、新しい時代の里山として利活用されるように、人と里山の新たな関係を創り上げていくことが、里山の再生・保全、ひいては地域の元気、活性化に寄与するものと考えられます。



### 3 構想の基本的な考え方

#### 1) 構想の目的

都会近くに残された北摂の里山地域一帯を「北摂里山博物館（地域まるごとミュージアム）」として整備し、生産活動はもとより環境学習、野外活動など、訪れる人々それぞれのニーズにあわせて利活用されることを通じ、北摂里山の持続的な保全を図り、北摂地域の活性化につなげることを目的とします。

#### 2) 対象地域

伊丹市内の昆陽池、宝塚市内の県立宝塚西谷の森公園や亦楽山荘、川西市内の黒川地域や県立一庫公園、三田市内の県立有馬富士公園や高平ナナムツの森、猪名川町内の朽原めぐみの森や大野山など阪神北県民局管内にある30箇所の里山の一つひとつを展示物に見立て、多くの人が気軽に訪れ、それぞれの目的に合わせて利活用できる“地域まるごと博物館”とします。

#### 3) 3つの里山街道

管内のこれらの里山は、構想対象地域の東西を流れる猪名川、武庫川に沿って点在しており、これらの里山を多くの人々に楽しみながら自由に巡っていただくため、猪名川町の大野山から伊丹市の伊丹緑地に至るルートをも「猪名川里山街道」、三田市から伊丹市の昆陽池公園に至るルートをも「武庫川里山街道」として位置づけます。また、たがいに固有の自然環境や歴史、文化を有する猪名川流域の「伝統的里山」と武庫川流域の「先進的里山」を結ぶ東西の回廊として、ふたつの河川の中上流域を川西市の黒川から猪名川町、宝塚市を経て三田市の有馬富士公園まで東西に結ぶルートをも「北摂里山街道」として構想の柱のひとつに位置づけます。

(※北摂里山博物館 里山分布地図)

#### 4) 基本理念

古より日本では多くの人々が里山からの恵みを受け、里山に感謝し、里山とともに生活を営んできました。里山と人との関係は、こころの豊かさを育み、里山は日本人のこころの原点でもありました。

ところが、1960年代に始まる燃料革命によって、多くの里山はその役割を失うとともに、人々は経済的な豊かさを追い求め、里山から離れていきました。しかしながら、都市部に近接する北摂里山は、今なお歴史・文化や生物多様性などの魅力を保つ稀少な空間として残されています。

そこで、構想では「北摂里山は日本人のこころ」を基本理念とします。

<基本理念>

## 「北摂里山は日本人のこころ」

北摂里山を保全するだけでなく、現代社会における新たな役割を見出し、地域の特性である北摂地域の高い市民力を背景に、人と里山とが意識的に共生し、互いに恵みを与え合う関係を創出する里山の一つのモデルとして、日本をはじめ世界に発信していくことをめざします。

#### 5) 戦略コンセプト

構想の基本理念を人々に分かりやすく発信し、幅広い人々から理解を得るために、キーワードとなる戦略コンセプトやそのシンボルマークを定めることとし、里山の利活用や保全におけるすべての事業・活動は、この戦略コンセプトのもとに展開し、長期にわたり一貫性のある施策として取り組みます。

<戦略コンセプト>

## 「ひと、さと、ずっと。」

人が里に恵みを、里が人に恵みを。  
互いに恵みを与え合うことにより、  
持続可能な社会の形成をめざします。

## 6) 基本方針

北摂里山が人と里山の新たな関係をつくり、互いに恵みを与えあう豊かな地域として発展する「北摂里山モデル」を創出するため、以下の基本方針に基づいて構想を実現していきます。

### ① ネットワークの構築と活性化

北摂里山街道を中心軸に、猪名川里山街道、武庫川里山街道にある各里山がネットワークを構築することにより、北摂里山全体の活性化を図ります。

### ② 共通のプラットフォームの構築

北摂里山で活動する森林ボランティアや環境活動団体、事業者、兵庫県立人と自然の博物館など研究機関、県・市町などの行政機関等の各主体が参画・協働できる共通のプラットフォームを構築します。

### ③ 北摂里山ブランドの創出と発信

北摂里山に潜在する多彩な里山資源に新たなブランドイメージ（人と自然のやさしさ、ぬくもり、安心感、こだわり、永続性等）を付加価値として加え、「北摂里山ブランド」として醸成・育成し、全国へ向けて発信します。

### ④ 広域連携の推進

歴史的、文化的、地勢的につながりの強い隣接する大阪府域の里山とも連携し、ツーリズムをはじめ構想の拡大化を図ります。

## 4 構想の実現にあたって

構想の実現にあたっては、兵庫県阪神北県民局がひとつの核となり、北摂里山で関連活動を行っている諸団体や住民に広く呼びかけ、今後企画展開していく各種事業の実現を目指していきます。そのためには、構想策定後、以下の項目を重点に、構想を実現していきたいと考えています。

### 1) 広報の戦略

北摂里山を広く周知する上で、北摂地域内外への広報戦略の策定は、重要なポイントです。各種メディアへの広報戦略を設計し、北摂里山の多彩なトピックスをメディアに拾い上げられる取り組みを推進します。また、地域住民や大都市圏への有効な広報戦略も合わせて策定します。さらに、構想独自の Web サイトを立ち上げ、頻度の高い情報発信で、関係者を含む内外の人々との交流を活発化させます。

項目	内容
Web サイト	不特定多数を対象に常時、北摂地域の内外へ最新情報や北摂里山の魅力を発信し、併せて北摂里山のサポーターを獲得。構想の発展にあわせ、段階的に Web サイトの内容を拡充。
ポスター、チラシ	構想の周知と北摂里山への集客のため、構想の内容や各種催事を紙媒体で広報。多くの人々の目に届くよう配布先や配布時期を選定。若い女性など訴求対象にあわせ、内容やテーマ、設置先を選定。
ガイドブック	北摂里山の魅力を紹介する雑誌を発行。初期段階では、北摂地域の住民をはじめ一般の人々を対象に、構想の理解へ向けた無料小冊子を発刊。最終的には、店頭販売するおしゃれな年毎に発刊するガイドブックを作成。
フォーラム	北摂里山の魅力と知名度を高め、構想に対する理解と周知を図るとともに、構想を着実に実現するため、定期的にフォーラムを開催。
広報紙	県や市町の広報紙を活用し、構想や関連イベント活動の周知などタイムリーで効果的な広報を実施。
各種メディア	新聞、雑誌、放送局などの取材や広告枠等からの情報発信。また里山関連の情報誌やケーブル TV、車内吊り広告への広報も実施。

## 2) 効果的な基盤整備

地域の内外から多くの人々が訪れるためには、利用者の適切な誘導、安全の確保、快適性の維持、アクセスの整備など、来訪者の受け入れに対応した効果的な基盤整備が欠かせません。そこで、地域外からの来訪者や散策者向けの案内や説明看板、トイレや休憩所の設置、安全対策のための転落防止等の設置・遊歩道のリニューアルなどの基盤整備を、主に行政の役割として担っていきます。

なお、里山本体の整備については、所有者や設置・管理者が行うことを基本とします。

項目	内容
各種看板	地域外からの自家用車等に対する案内看板、散策者向けの案内看板・説明看板、北摂里山街道案内看板、主要駅における総合案内看板等を整備。
トイレ整備	新設は最小限とし、可能な限り既存施設や民間店舗等の既存トイレの有効活用を図る。
休憩所、安全対策等	北摂里山へのアクセスポイントとなるバス停の整備、里山フィールドエリアでのベンチや高木の植栽による木陰など休憩所の整備。また、安全確保等のための県立有馬富士公園の散策路の整備をはじめ各フィールドエリア内での転落防止策を設置。
ビジターセンターの整備	北摂里山の情報を発信・提供するため、能勢電鉄川西能勢口駅、JR三田駅、JR宝塚駅、道の駅いながわ、伊丹市昆虫館、県立一庫公園、県立有馬富士公園、県立宝塚西谷の森公園、妙見ケーブル黒川駅等に設置。

### 3) ツーリズムの振興

北摂里山の魅力は、「来て見て体験して」いただくことが一番です。そこで、阪神北地域ツーリズム振興協議会をはじめ各種団体や旅行代理店等と呼びかけ、北摂里山をテーマにしたツーリズムプランをはじめ大阪府との県域を超えた広域的なツーリズムプランを企画・実行していきます。全国へ北摂里山地域の魅力をキャンペーンなどで広報（情報発信）し、多くの観光客に来ていただける魅力的なツーリズムの振興をめざします。

項目	内容
連携	<p>(阪神北地域ツーリズム振興協議会との連携)</p> <p>阪神北地域の市町、観光協会、商工会議所・商工会等で構成する「兵庫県阪神北地域ツーリズム振興協議会」と連携し、北摂の里山に関する情報発信、観光ツーリズムの企画・実践を行う。</p>
	<p>(広域連携)</p> <p>池田市・豊能町・能勢町など隣接する大阪府側の北摂地域や「いいな里山ねっと」などと連携するなど、広域的なツーリズムを展開する。</p>
	<p>(民間ツーリズム等との連携)</p> <p>「きらっとバス」を運行する旅行代理店等、旅行会社等と連携した北摂里山ツアーの企画・広報等を行う。</p>
人材育成	<p>来訪者への里山ガイドを行うボランティアを公募・養成する。また、里山大学や里山保全研修会等を通じて、北摂の里山の保全・利活用を推進する人材を育成する。</p>
情報発信	<p>新たなツーリズムのメニューとして北摂里山を活用してもらうため、さまざまな機会や媒体を通じて、北摂里山の地域資源情報を発信・提供する。</p>

#### 4) 里山資源を活用した環境教育・学習の推進

北摂里山は古から受けつがれてきた自然と人との共生の場です。社会人はもちろん、これからの時代を担う若者達にも受けつぐべき大切な財産です。この大切な北摂里山を次世代へつなぐ環境学習は、構想における重要な位置づけにあります。構想では、子どもから大人までの各世代に対応した環境学習の場を提供し、様々なプログラムも用意します。拠点施設のみならず都市部への出前講座や教育機関における環境学習支援も視野に入れた実施をめざします。

項目	内容
こども	児童・生徒を対象とする里山での環境体験学習を充実・強化。
学生からシニア	北摂里山で森林ボランティアや環境保全活動に取り組む人材を養成するための場を創設。
教師・指導者	里山での環境学習を指導する教師や指導者に対する研修会等を企画・開催。
森林ボランティア 環境活動団体	里山保全に関する知識や技術を習得するための研修会等を企画・開催。
その他一般	里山への関心や興味を喚起させるためのフォーラムや講演会等を企画・開催。

#### 5) 活動支援と自律的運営

北摂里山を継続的に維持管理していくためには、地域の人々や森林ボランティアなどが主体的に活動してもらう必要があります。そのような活動を可能な限り継続していただくため、活動支援として管理のための技術指導や助成の支援を計画しています。また、(仮称)北摂里山博物館推進機構についても、公的機関の支援に頼るだけでなく、北摂里山の持つ資源や潜在能力(ポテンシャル)を活用したビジネスモデルを立ち上げ、自ら運営資金の調達を行い、将来的に自律した組織へ発展することをめざします。

## 5 北摂里山の新たな役割

### 1) 里山資源の新たな価値の創出とその利活用

新たな里山の利用を考えるにあたり、都会に住む人々のライフスタイルを考える必要があります。人々の生活は機能性を追求した結果、活動の中心は都市へと移り、日常生活において、かつて日本人のこころの原点であった「里山」と接する機会が少なくなっていました。

しかし、昨今の人々は心の癒しや精神的な豊かさ、さらには生きがいを求めて再び自然と接する生活が見直されつつあります。効率や利便性よりも心の豊かさを求めるこうした変化から、北摂里山をいかに現代人のライフスタイルと結びつけるかについて検討し、戦略コンセプト「ひと、さと、ずっと。」に則り、活動プランに反映させていきます。

この活動プランのエネルギー源とも言えるのが、北摂里山ブランド、すなわち北摂地域における豊かな**里山資源**です。これまでの評価や価値を見直し、新しい角度から新たな価値を創出し、北摂里山の魅力を向上させたいと考えています。具体的には、北摂里山の里山資源を「**ツーリズム資源**」「**情報資源**」「**環境資源**」「**経済資源**」「**里育資源**」の5つの分野から、新たな役割としてその利活用を図っていきます。

### 2) 北摂里山の利活用案

#### ①「見る・歩く・体験する」(ツーリズム資源)

ツーリズムは「行って、見て、歩いて、参加し、体験する」が基本です。北摂里山に近接する都市部の人々を対象に、北摂里山における観光・ツーリズムルートの掘り起こしを行い、ツーリズムのメニューを徐々に増やし、観光客のニーズにあわせた「見る・歩く・体験する」プランを用意します。北摂里山の魅力をアピールし、観光客を誘致するための仕組みづくりを、阪神北地域ツーリズム振興協議会をはじめ各市町観光協会や旅行代理店等との連携により検討します。

(北摂里山の利活用例)

#### 【北摂里山ホリデー路線のバス開業】

地域のバス事業者や市町と連携し、休日等に「北摂里山街道」を運行するバス路線の実現をめざします。



### 【北摂里山ツアー】

阪神北地域ツーリズム振興協議会をはじめ各市町観光協会や全国規模の旅行代理店等と連携し、「北摂里山ツアー」や関西旅行プランの一部に北摂里山を組みこんだ旅行商品の開発を支援し、全国へ情報発信します。

### 【温泉や美しい街並など他のツーリズム資源と連携】

里山の魅力や史跡を訪ね歩くコースの選定のため、地域の既存のツーリズム資源（温泉・寺社仏閣、美しい街並、飲食店、商店等）と連携をはかり、「北摂里山ツアー」へ地域資源を組みこんでいきます。

### 【地域内の拠点施設の紹介とエリアマップの策定】

北摂里山エリアの選定を行い、エリアマップを作成します。その過程でエリアの施設や街並などの見どころも組みこみ、「北摂里山案内マップ」の看板を製作し、各拠点や交通要所へ設置します。

## ② 「知る・触れる」(情報資源)

情報発信は、「知って・触れて」が基本です。北摂地域の住民だけではなく、北摂里山に近接する都市部の人々を対象に、北摂里山の魅力を継続的に発信し、各人の北摂里山への関わり方や取組を進めていきます。また、北摂里山の魅力を体験できる場として、都市部における情報発信拠点を、都市部の百貨店や商業施設と連携して検討します。

### (北摂里山の利活用例)

#### 【Webによる情報発信】

現行の北摂里山博物館のWebサイトを一新し、新規Webサイトを開設します。構想からのスポークスマンとして、常に新たな北摂里山の情報を提供します。各種事業の見通しがついた段階から、Webマガジンによる定期発刊、そしてサポーター（支援者）登録なども行います。

#### 【広報媒体、イベントによる情報発信】

北摂地域の地元住民や森林ボランティア、環境活動団体等と連携し、年間を通して各種広報媒体からタイムリーな情報発信を行います。また、フォーラムを年2回程度継続して開催します。

#### 【体験型ワークショップの企画・運営】

各拠点施設、森林ボランティア、環境活動団体や住民との協働で、各種イベントや情報発信拠点などで利用可能な、北摂里山を味わうことができる体験型ワークショップや散策ミニツアーをプログラムとして用意します。

#### 【プロモーション映像とそのプロモーション活用】

戦略コンセプト「ひと、さと、ずっと。」をアピールする上で、映像は大きな影響力を持っています。そこで、北摂里山の各地域と連携し、北摂里山や街並エリアなどの好感度を増すプロモーション映像を作成し、県提供テレビコーナー「ひょうごツウ」、県民情報番組「ひょうご“ワイワイ”」、他北摂各市町の市町提供TV番組、および地域CATVなど各メディアへの放映を検討します。

#### 【都市部での情報発信拠点の整備（設置）】

都心部の百貨店や商業施設、商店街と連携し、「北摂里山博物館構想」を紹介する情報発信拠点を設置します。都市部の生活者へ北摂里山の魅力をたっぷりお知らせするステーションとなり、常に新鮮な北摂里山情報を発信します。

### ③「住む・楽しむ」(環境資源)

豊かな生活とは、「住んで、楽しむ」ことが基本です。里山ライフに関心のある方を対象に、北摂里山に短期留学するような感覚で里山での豊かな生活を「住む・楽しむ」仕組みづくりを、北摂里山に住む人々との協働により検討します。

#### (北摂里山の利活用例)

##### 【次世代型里山コミュニティの創設】

豊かな里山ライフの魅力を満喫し、都市部の生活者を受け入れることが可能な地域体制（コミュニティ）を整備します。

##### 【中期滞在向けサービスの企画・運営（中期滞在型の施設整備）】

都市部に近く、日帰り客が多いという現状から中長期滞在型の「里」へ飛躍するため、空屋の有効利用を図るほか、北摂里山における中期滞在型の施設（既

存施設や民宿の活用)を整備します。

#### 【里山学芸員(ガイド)の育成・活用】

北摂地域の観光ボランティアとして活躍されている方も含め、ガイドボランティアを志す方を育成し、北摂里山博物館の「里山学芸員(ガイド)」として、北摂里山を楽しむお手伝いをします。

### ④「使う・創る」(経済資源)

北摂里山の新しい価値は「使えるものを創造する」ことです。北摂里山に埋もれている地域資源を発掘し、北摂地域や都市部の消費者をターゲットに、地域の産業創造や活性化へつながる「使う・創る」仕組みづくりを、地域の商工会議所・商工会、JAや生産者、また地域のアーティストなどと連携して検討します。

(北摂里山の利活用例)

#### 【北摂里山ブランドの創出とその利用】

「ひと、さと、ずっと。」のブランドイメージを基本に新規ビジネスの創出や地域活性化を図ります。広報戦略に則り周知します。次から述べる各種経済戦略の旗印としてイメージ活用しレベルアップを図ります。そして、地域ブランドとして全国へ情報発信します。

#### 【農畜産物のリノベーション(付加価値の提供)】

すでに北摂里山において定番となっている農畜産物(うど、兵庫えんどう、軟弱野菜、北摂栗、自然薯・ヤマイモ、原木シイタケ、桃、イチジク、三田牛等)を、北摂里山ブランドとして新たな付加価値を提供し、流通販路の拡大と販売増大をめざします。

#### 【里山資源を活用した新たな商品・サービスの企画と運営】

北摂里山にある特産品をはじめ、地域の人だけが知っている名産を掘りおこし、そして新規に企画開発した商品などを、北摂里山ブランドとして都市部の消費地へ売りこみます。北摂里山ブランドを機軸に、商工会議所・商工会、JAや生産者などと連携して北摂里山地域を経済的に支援します。

#### 【運営資金の創出】

北摂里山博物館構想を推進する中核組織を運営するための資金調達（マネタイズ）の方法を検討します。例えば、ブランドラベル商品による1%里山還元構想など、各種資金調達計画を策定するチームを立ち上げ、専門部会として実務的な計画を検討します。

#### 【新たな里山ビジネスの創出】

地域経済を活性化させるためにも、北摂里山ならではの新たなビジネスモデルを創出します。伐採木を利活用した再生可能エネルギーの利用を研究するなど、北摂地域に埋もれている資源を活用する方策を打ち出し、里山ビジネスとしての定着を図ります。

### ⑤ 「学ぶ・守る」（里育資源）

子どもからシニア世代を対象に、それぞれのライフステージにあわせ命や心の大切さもまじえた環境学習として「里育＝里山＋教育」を推進するとともに、研究者に里山保全手法の研究の場を提供するなど、「学ぶ・守る」仕組みづくりを、兵庫県立人と自然の博物館などの研究機関、教育委員会、森林活動ボランティアなどと連携して検討します。

（北摂里山の利活用例）

#### 【里山大学の開校】

県内の大学・研究機関、および里山活動団体と連携して、北摂里山への学術的アプローチを推進します。里山保全管理・利活用マネージメントから歴史・文化的な背景まで、北摂里山をアカデミックに扱う場を提供します。里山大学の卒業生には、北摂里山博物館構想（活動）への参画を優先的に行うなど、里山大学で得た知識を役立たせる場を提供していきます。

#### 【子ども向け里山留学「里山サマースクール」】

北摂里山地域の環境保全団体や森林ボランティア、地元住民の協力を得て行う、短期宿泊型ワークショップです。夏休みの一週間、小学生を対象にした夏期里山サマースクールを開校し、里山の中で思い切り自然を楽しんでもらいます。

#### 【子育て里山ホームステイ（里育）】

「子どもを自然環境の中で育てたい」「子どもを自由でノビノビとした環境で育てたい」「自然にふれあわせて、豊かな感性を育ませてあげたい」と考える保護者へ、北摂里山に親子でショートステイできるプログラムを提供します。

#### 【里山保全研修会等の開催】

森林組合や県立人と自然の博物館と連携し・ナラ枯れ、鹿害など里山が直面している問題を中心に、兵庫方式の里山管理手法の普及啓発など、里山保全に関する知識や技術を提供する研修会を開催します。なお、既存の専門家育成制度も活用し、当地の人材を育成していきます。

#### 【「里育」ブランドを確立。学習フィールドとして浸透】

北摂地域の教育委員会や教育関係機関を中心に、幅広く教育関係者をまきこんで、「里育＝里山＋教育」ブランドを普及させます。前述の里山ホームステイや里山留学（里山サマースクール）などをベースとした里育モデルプランを策定し、それを軸に全国里育研究会を立ち上げ、「里育」という新しい教育手法を全国へ普及させます。

#### 【里山活動助成制度】

北摂里山博物館構想の実現に資する事業に該当するもので、環境活動団体、森林ボランティア、里山林の利用促進活動を行う団体（事業者、NPO 法人、森林組合など）を対象に、活動助成を行います。

## 6 構想の実現に向けた推進体制

### 1) 構想実現へ向けた連携

構想の実現に向けて、まず第一に、関連する地域の各々との連携と協働により事業を推進します。



#### ① 地域の人々

地域に潜在する豊かな里山資源を改めて認識し、ツーリズムやボランティア活動などを通じて、里山の価値について理解を深めます。そして、里山の保全活動や様々な取組みに主体的に参画し、地域全体で来訪者への受け入れ体制の整備や里山の良さを外部に発信する活動を推進します。

#### ② 森林ボランティアや環境活動団体

森林ボランティアや環境活動団体等との相互連携や支援により、里山の維持管理や環境学習の指導はもとより、広報関係を含めた様々な活動を行います。また、各団体をネットワークし、相互の交流や分野の垣根を越えた幅広い活動を実践します。

#### ③ 県立人と自然の博物館をはじめ大学等の研究機関や教育機関

北摂里山に関わるテーマを研究対象として、学術研究を推進し、研究

データやその成果を地域や森林ボランティア、環境活動団体などへ提供し、各種の活動を知的に支援します。産官学の連携における要としての活動を行います。

#### ④ 事業者

事業者等諸団体のCSRや社会・環境貢献活動また地域との交流活動の一環として、「企業の森」など北摂里山の様々な活動に参画します。また企業が持つ様々なノウハウ等を提供します。

#### ⑤ 市町

所管する里山に潜在する里山資源の発掘や情報提供に努めるとともに、個々の里山本体の整備について、里山の所有者や設置・管理者と調整します。その他、地域団体との調整や構想に関する普及・啓発を積極的に行い、構想を盛りあげていきます。

#### ⑥ 県民局

構想を推進する中核組織の準備をすすめるとともに、市町等と連携して構想の推進に努めます。総合的な取り組みにより、北摂里山街道の設定や情報発信、案内看板・ビジターセンターなど利用者の利便性や各里山間のネットワーク化につながるよう施設等を整備するとともに、各種施策に対する支援を行います。

## 2) 推進体制のあり方

構想の継続的な推進のためには、一般の人々や事業者・NPOなどが自由に参画できる中核的な組織が必要です。既存の活動団体や学術機関等との連携にも注力して、「里山」をテーマに活動するさまざまな人々が本構想を通じてネットワークを広げ、豊かなコミュニケーション・情報交流ができる基盤を早期に創り上げます。

#### ① 初動期（2011～13年度）

阪神北県民局が中心となって各種情報の整理と発信のほか、案内看板・ビジターセンターなど利用者の利便性や各里山間のネットワーク化につながるよう施設等の基盤整備、活動支援を実施します。

また、事業者やNPO等が参画するためのスキームを策定し、県をはじめ大学などの研究機関や教育機関との連携を密にし「産・官・学」が融合した中核組織を構築します。

(初動期の各事業実施区分は別添参照)

② 第二期 (2014年度～)

中核組織が中心となって情報発信などの受託事業や物販などの自主事業、活動団体との調整などを実施し、県・市町等は基盤整備等の実施など中核組織を支援します。

このように、北摂里山に関連する主体がそれぞれの役割を果たすことにより、北摂里山の継続的な維持保全とその利用を通じ、生き生きとした「ひと・さと・ずっと。」をベースとして地域社会を形成していきます。



初動期の北摂里山博物館構想事業実施区分

	23(2011)年度	24(2012)年度	25(2013)年度
阪 神 北 摂 民 局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本構想策定(懇話会開催、ロゴ、デザイン等)</li> <li>・推進機構設立準備</li> <li>・Webサイトの立ち上げ</li> <li>・フォーラム開催(11, 3月)</li> <li>・情報発信(チラシ・ポスター、ガイドブック作成、配布)</li> <li>・環境学習、イベント等実施</li> <li>・ツーリズム関係(キャンペーン等)</li> <li>・薪らいふの推進</li> <li>・ハード基盤整備</li> <li>・活動団体の参画・支援・調整</li> <li>・夢推進事業の調整</li> <li>・推進協議会、里山部会の見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本構想進行管理</li> <li>・推進機構設立</li> <li>・各種事業を直轄又は委託(Web管理、フォーラム、里山大学、情報発信、環境学習・イベントなどの実施、ツーリズム、薪らいふの推進)</li> <li>・ハード基盤整備</li> <li>・活動団体の参画・支援・調整</li> <li>・ツーリズム振興協議会との連携</li> <li>・夢推進事業の調整</li> <li>・ショールーム候補へ打診</li> <li>・推進機構の自主事業へ向けた準備作業(企業の協賛依頼、物販、旅行商品企画等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本構想進行管理</li> <li>・推進機構の運営支援</li> <li>・推進機構への事業委託(Web管理、フォーラム、里山大学、情報発信、環境学習・イベントなどの実施、ツーリズム活動、薪らいふの推進)</li> <li>・ハード基盤整備</li> <li>・活動団体の参画・支援・調整</li> <li>・ツーリズム振興協議会との連携</li> <li>・夢推進事業の調整</li> <li>・推進機構への事業引き継ぎ</li> </ul>
北 摂 里 山 博 物 館 推 進 機 構 (仮称)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進機構設立へ向けた準備</li> <li>・推進機構設立</li> <li>・活動団体・事業者との協働準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進機構の運営</li> <li>・活動団体、事業者との協働&lt;受託事業&gt;</li> <li>・県民局等からの事業受託&lt;自主事業&gt;</li> <li>・企業等の参画、協賛依頼</li> <li>・ネットや百貨店等での物販(ブランド品、関連グッズ等)</li> <li>・ショールーム開設(物販、広告)</li> <li>・旅行商品企画・実施</li> <li>・講演会、イベント企画・実施</li> <li>・クラブ会員募集</li> <li>・会報発行</li> <li>・再生エネルギーの研究 など</li> <li>・26年度以降の事業計画(自主事業強化)</li> </ul>
市 町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・懇話会参加</li> <li>・基本構想の普及・啓発</li> <li>・里山資源の発掘開発支援</li> <li>・住民や団体との調整</li> <li>・地域の里山整備の準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進機構に参画</li> <li>・地域へ構想の普及・啓発</li> <li>・里山資源の発掘開発支援</li> <li>・住民や団体との調整</li> <li>・地域の里山整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進機構に参画</li> <li>・地域へ構想の普及・啓発</li> <li>・里山資源の発掘開発支援</li> <li>・住民や団体との調整</li> <li>・地域の里山整備</li> </ul>
活 動 団 体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援ネットワーク構築準備</li> <li>・里山管理</li> <li>・環境保全活動</li> <li>・環境学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援ネットワーク構築・参画</li> <li>・里山管理</li> <li>・環境保全活動</li> <li>・環境学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援ネットワーク参画</li> <li>・里山管理</li> <li>・環境保全活動</li> <li>・環境学習</li> </ul>
懇 話 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本構想の策定</li> <li>・推進機構設立準備</li> <li>・各関係者の連絡・調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構想の進行管理</li> <li>・推進機構(理事会)に参画</li> <li>・各関係者の連絡・調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構想の進行管理</li> <li>・推進機構(理事会)に参画</li> <li>・各関係者の連絡・調整</li> </ul>

## 7 懇話会 名簿

	職 名	氏 名
委員	人と自然の博物館 自然・環境再生研究部長	服部 保
〃	新さわやかな環境づくり阪神北地域行動計画推進会議 会長	足立 勲
〃	神戸新聞北摂総局総局長	中西 弘則
〃	能勢電鉄株式会社取締役社長	岸本 和也
〃	伊丹市 副市長	川村 貴清
〃	宝塚市 副市長	山下 稔
〃	川西市 副市長	水田 賢一
〃	三田市 副市長	吉岡 正剛
〃	猪名川町 副町長	宮脇 修
〃	兵庫県阪神北県民局長	森 哲男